



AM/NS India における 製鉄事業基盤の強化 について

ハジラ製鉄所の鉄源・熱延設備投資決定
および港湾・電力関連設備会社の買収

2022年9月28日

日本製鉄株式会社



目次

1. 今回投資のねらい

2. ハジラ製鉄所 鉄源・熱延設備等の新設・増強

3. 重要インフラ会社・資産等の買収

参考資料

今回投資のねらい

当社とアルセロール ミittalがイコールパートナーシップで運営するAM/NS Indiaにおいて、以下の製鉄事業基盤強化施策を実施

ハジラ製鉄所の鉄源拡張

- 粗鋼生産能力約9 → 約15百万ト/年
- インド鉄鋼需要拡大を捉え市場プレゼンスを確保

重要インフラの買収 (港湾・電力等)

- ハジラ製鉄所・バイザック・パラディプ ペレット工場の港湾・電力等を自社保有化
- 生産・サプライチェーンを安定化・強化
- 加えて上記能力拡張後のインフラ需要をカバー





目次

1. 今回投資のねらい
2. **ハジラ製鉄所 鉄源・熱延設備等の新設・増強**
3. 重要インフラ会社・資産等の買収

参考資料

ハジラ製鉄所 鉄源・熱延設備等 新設・増強の概要⁵

主要新規設備

高炉	2基	7.0百万t/年	4,500m ³ ×2基
ペレットプラント	1基	3.0百万t/年程度	
焼結	2基	6.0百万t/年程度	
コークス	3炉団	2.1百万t/年	
転炉	3基	粗鋼生産能力 6.0百万t/年	350t/ch インド最大規模 脱ガス設備設置
連続鋳造設備	2基		2ストランド/基×2基
熱延設備	1基	5.5百万t/年	インド最大規模

設備投資額

4,100億INR (約7,300億円)

投資資金所要はAM/NS Indiaの自己資金および借入により充当

AM/NS Indiaの借入に対して必要に応じて当社・アルセロール ミittalが債務保証を行う予定

粗鋼生産能力

+約6百万t/年 (約9→約15百万t/年)

稼働開始時期

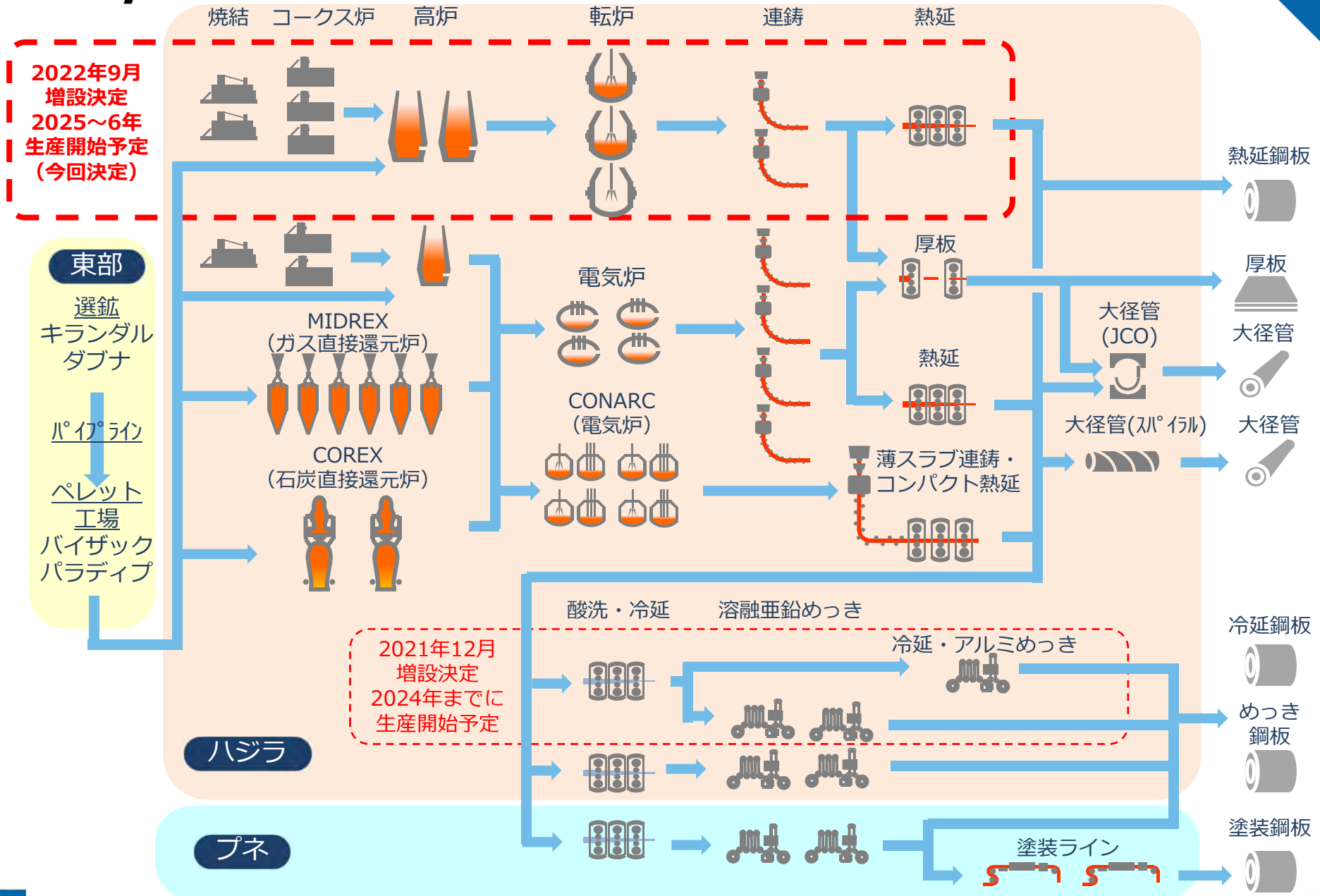
第Ⅰ期 (2025年後半) : 第2高炉および関連設備、新製鋼・新熱延

第Ⅱ期 (2026年前半) : 第3高炉および関連施設

ハジラ
一貫製鉄所



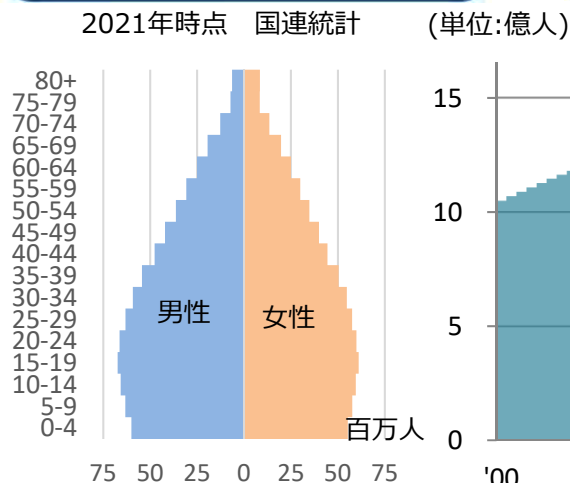
AM/NS India 製造工程



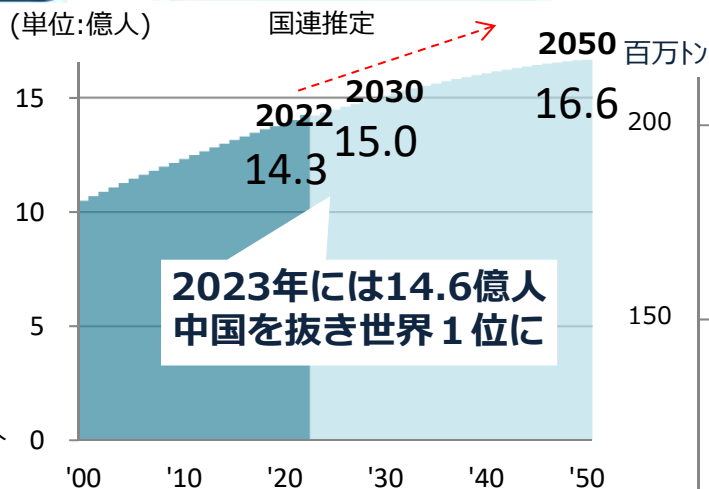
インド鉄鋼需要の拡大

経済成長と人口増によりインドの鉄鋼需要は着実に増加

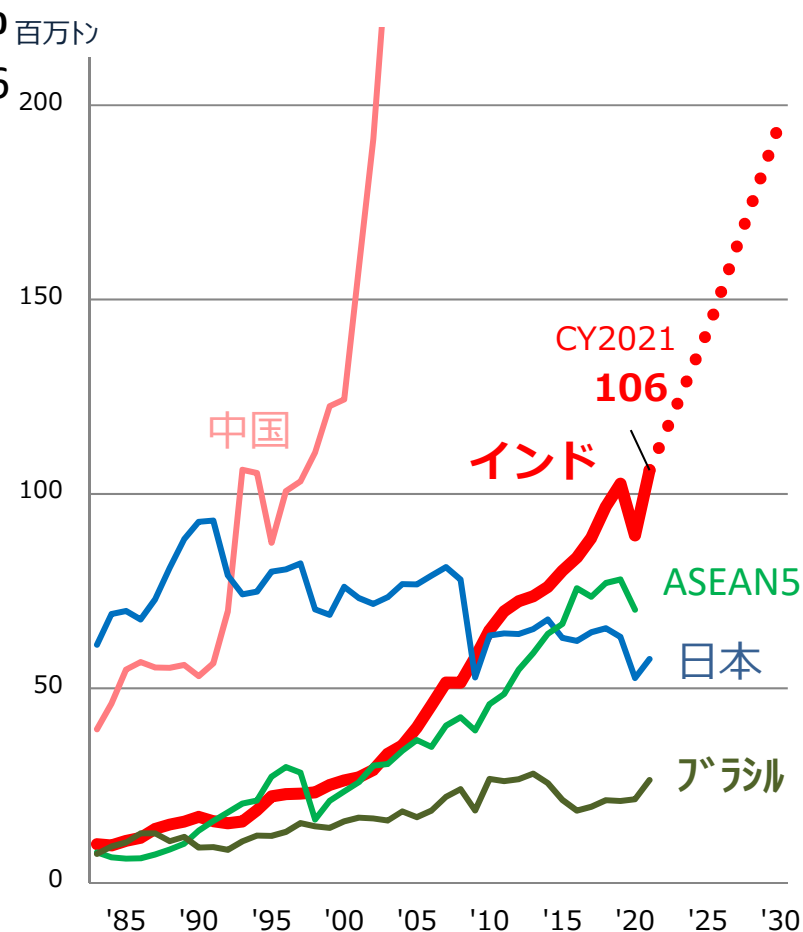
インド人口ピラミッド



インド人口推移



鋼材需要推移



GDP成長率

% ~2022 : 2022.7 IMF想定
2023~ : 2022.4 IMF想定

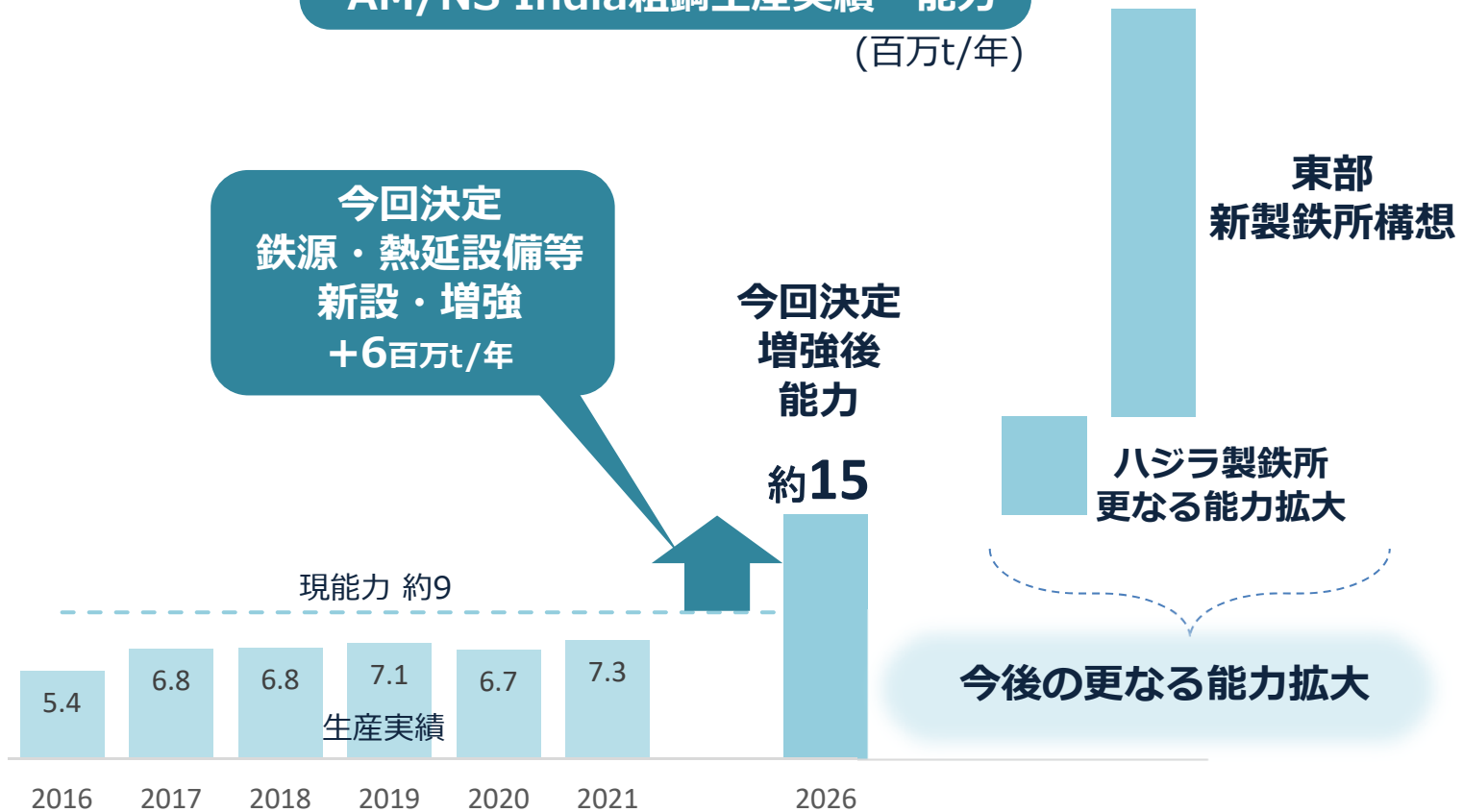
	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
世界	6.1	3.2	3.6	3.4	3.4	3.3	3.3
インド	8.9	7.4	6.9	7.0	7.0	6.5	6.2
ASEAN	3.4	5.3	5.9	5.6	5.3	5.3	5.1
中国	8.1	3.3	5.1	5.1	5.0	4.9	4.8
ブラジル	4.6	1.7	1.4	2.2	2.0	2.0	2
日本	1.6	1.7	2.3	0.8	0.7	0.5	0.4

AM/NS India 生産能力拡張

今後のインドの鉄鋼需要の成長に早期に対応するために、
段階的に能力を拡張

AM/NS India粗鋼生産実績・能力

(百万t/年)



ハジラ製鉄所 鉄源・熱延設備 新設・増強の考え方

当社・AMの技術を活かし、インド鉄鋼市場の成長に対応するため、既存ハジラ製鉄所での高炉－転炉プロセスによる能力増強を決定

能力拡張・立ち上げを
早期に実現し
需要成長を捕捉

- インドにおいて障害・遅延の最大要因となりうる土地取得問題がない既保有の未使用地を活用
- 既に確立した技術である高炉－転炉法の採用により迅速かつ確実に立ち上げ
- 既存の第1高炉の改修時期にあわせて新設高炉を稼働することにより、機会損失を回避

自動車用鋼板等の
高級鋼対応

- 高級鋼の製造への対応力のある高炉－転炉法を採用
- 脱ガス設備を設置し高級鋼対応力を確保
- 既決定の薄板製造設備増強とあわせ品種対応力拡大

2021年12月決定 ハジラ製鉄所薄板製造設備増設
～自動車鋼板・建材用高耐食性鋼板などの高級鋼製造に対応

環境・省エネに優れた
設備を導入

- CDQ（コークス乾式消火設備）・TRT(高炉炉頂圧発電)等の省エネ設備や、環境対策設備（粉塵・臭気・水質・騒音対策等）を導入

カーボンニュートラル技術の
適用プロビジョン

- 当社・アルセロール ミツタルが開発中の高炉設備を用いたカーボンニュートラル技術を適用するプロビジョンを織り込み。



目次

1. 今回投資のねらい
2. ハジラ製鉄所 鉄源・熱延設備の新設・増強
3. 重要インフラ会社・資産等の買収

参考資料

重要インフラ会社・資産等買収の概要

11

買収対象

いずれの会社もAM/NS Indiaとの取引に特化

● 港湾

Essar Bulk Terminal Ltd.	ハジラ	ハジラ製鉄所の原料入荷、製品海送のほぼ全量を取扱い（荷役能力：25百万t/年）
Essar Bulk Terminal Paradip Ltd.	パラディプ	パラディプ地区ペレット工場におけるペレット輸送・荷役を取扱い（荷役能力：12百万t/年）
Essar Vizag Teriminals Ltd.	バイザック	バイザック地区ペレット工場におけるペレット輸送・荷役を取扱い（荷役能力：16百万t/年）

● 電力関連

Essar Power Hazira Ltd.	ハジラ	ハジラ製鉄所構内の発電会社（発電能力：270MW）
Essar Power Ltd.	ハジラ	ハジラ製鉄所構内の発電資産（発電能力：515MW）
Essar Power Transmission Company Ltd.	ハジラ	ハジラ製鉄所が外部から調達する電力の送電事業（送電線100km）

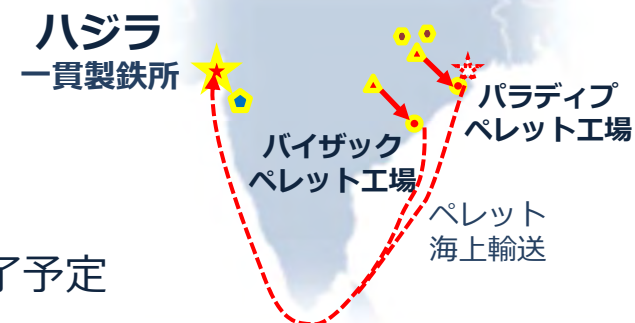
買収金額

24億US\$（約3,400億円）

投資資金所要はAM/NS Indiaの自己資金および借入により充当
AM/NS Indiaの借入に対して必要に応じて当社・アルセロール ミittalが
債務保証を行う予定

買収時期

2022年8月26日契約締結 → 関係当局の承認取得後に買収完了予定



重要インフラ会社・資産等買収の考え方

エッサールスチール買収後も
港湾・電力等の重要インフラは
エッサールグループが継続保有

重要インフラ買収により
生産活動・サプライチェーンを
さらに強化・安定化

- 2019年12月のインド倒産破産法に基づくエッサール スチール買収時に、港湾・電力等のインフラ会社・資産は買収対象に含まれずにエッサール・グループが継続保有。
- AM/NS Indiaは、エッサール スチール時代からの契約を継承し、これらのインフラを使用。
- 当該港湾・電力等のインフラは、AM/NS Indiaの製鉄事業運営において一体不可分の重要基盤設備
- 港湾関連自社保有化
 - インド西部・東部・南部にある製造拠点間および輸出も含めた、シームレスな原料・製品の輸送を実現
- 電力関連自社保有化
 - ハジラ製鉄所の低コストかつ長期的な電力供給体制を確保
- インフラ使用料支払い削減・設備の改善
 - コスト削減
- 今回のハジラ製鉄所能力拡張を含め、今後の能力拡張に必要なインフラを確保



目次

1. 今回投資のねらい
2. ハジラ製鉄所 鉄源・熱延設備の新設・増強
3. 重要インフラ会社・資産等の買収

参考資料

(参考) AM/NS India概要

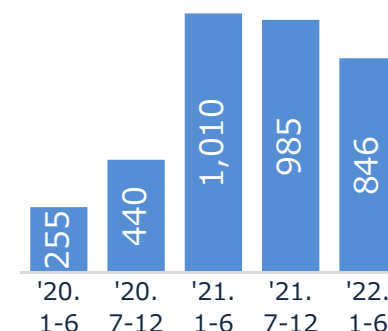
2019年12月

当社とアルセロール ミittalが共同でエッサール スチール社を買収し、AM/NS Indiaを設立

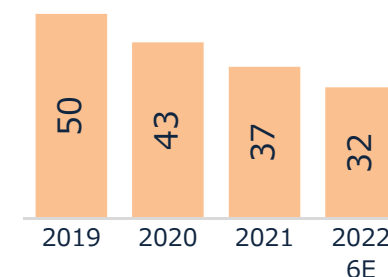
- 資金拠出額： 5,000億INR (約7,700億円)
 - ┌ 買収額 4,200億INR (約6,500億円) →エッサール スチールの債務返済
 - └ 初期資金投入 800億INR (約1,200億円) →設備投資・運転資金
- 出資比率：当社40%・アルセロール ミittal60%
- 出資/親子ローン=2/1
- 両社が同数の取締役を指名し、イコールパートナーシップで事業運営
- 当社・アルセロール ミittalとも持分法適用会社として連結



EBITDA (百万US\$)



ネット有利子負債 (億US\$)



- 粗鋼生産量739万t/年* (国内第5位)
 - 鋼材販売量691万t/年*
 - 従業員：4,567名**
- * 2021年度
**2021.12E

(参考) AM/NS India 再生可能エネルギー活用推進

再生可能エネルギー電力事業に出資参画し、
今後25年間にわたり、ハジラ製鉄所等向けに
年間250MWの再生可能エネルギー電力を確保
(2024年より本格供給開始)

【AM/NS Indiaのメリット】

- ・ ハジラ製鉄所の電力所要の約20%が再生可能エネルギー由来となり、調達電力のグリーン化に寄与（年間約150万tのCO₂排出削減を実現）
- ・ 再生可能電力の安価調達により、環境負荷の低減とコストメリットを両立

太陽光・風力発電設備の安価化、低廉な工事費の活用による発電コストの低下に加え、インド政府による積極的な再生可能エネルギー導入インセンティブを活用することで、低コストでの再生可能電力の調達を実現

【参考】再生可能エネルギー電力事業の概要

(AM社/印Greenko Group社によるプロジェクトに、AM/NS Indiaが出資参画)

- ・ 所在地 : インド南部アーンドラ・プラデーシュ州
- ・ 設備概要 : 太陽光発電・風力発電に揚水発電を組み合わせ、発電安定性を確保
- ・ 設備容量 : 975MW (太陽光・風力発電設備の合計容量)

(参考) 当社グループグローバル生産体制

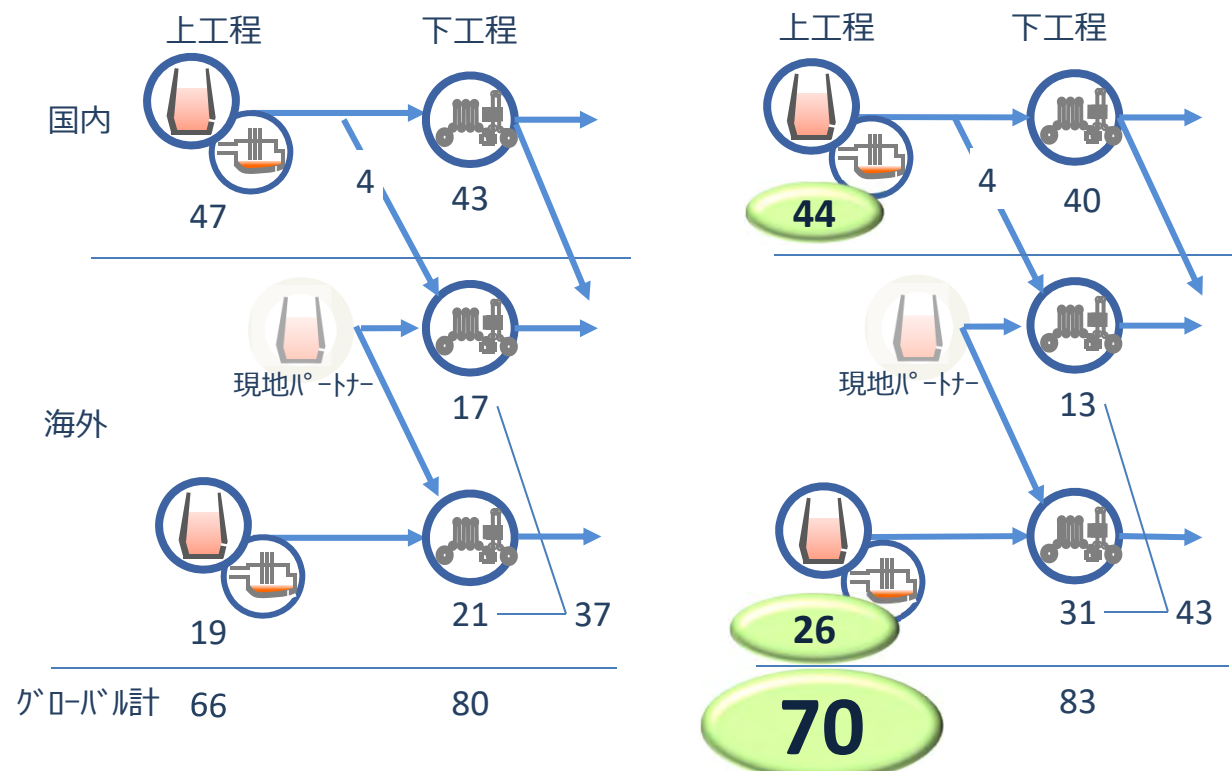
2022年9月時点

2026年後半想定

将来ビジョン

- +) AM/NS Calvert 電気炉設置 (2023)
- +) **AM/NS India 今回決定能力増強**
-) 日鉄ステン周南地区 電気炉休止 (2024.3)
-) 鹿島3高炉休止 (2024年度末目途)

単位：百万t/年



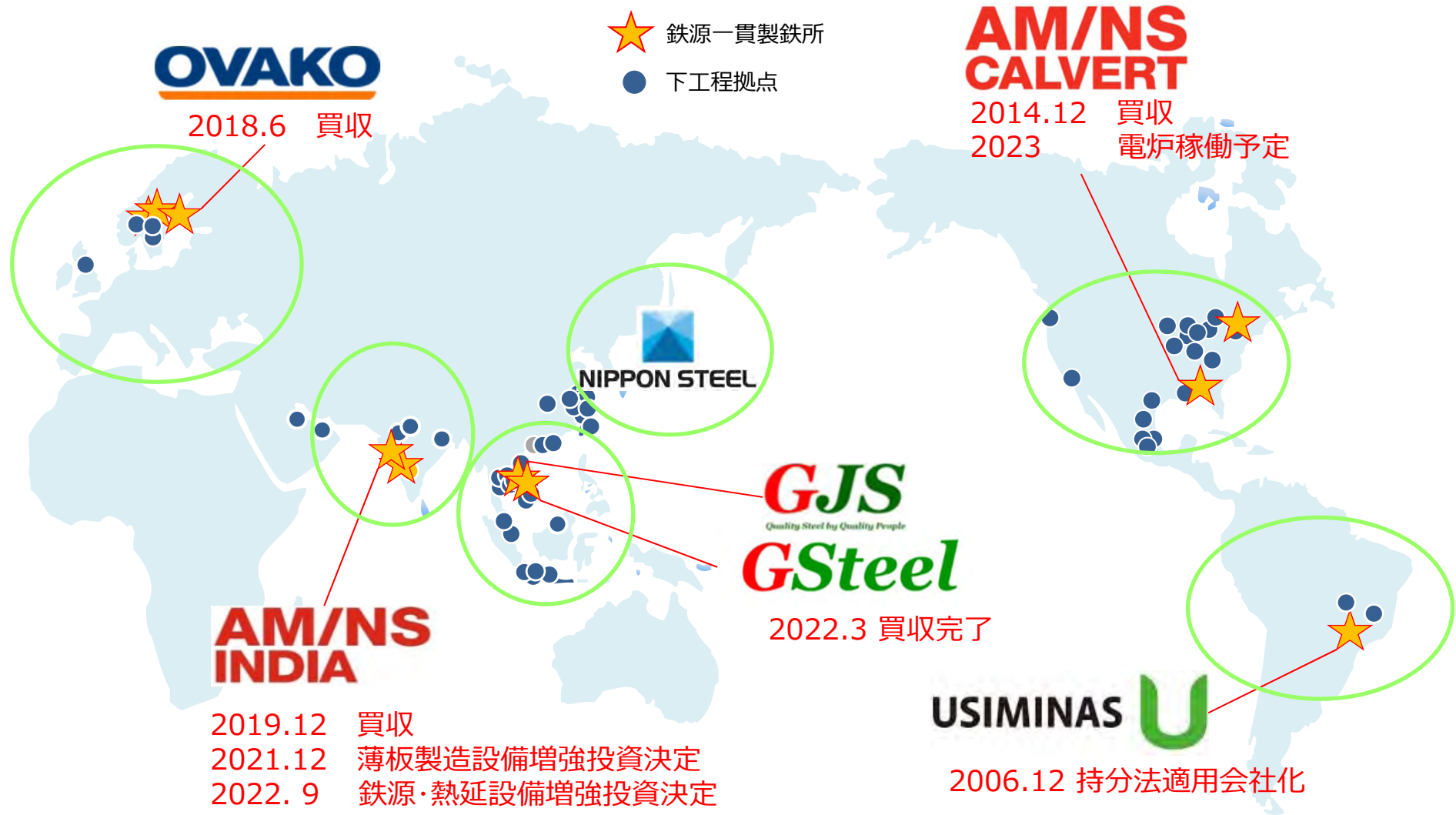
- ◆ AM/NS India ハジラ製鉄所更なる能力拡張
- ◆ AM/NS India 東部新製鉄所構想
- ◆ 更なる一貫製鉄所の買収・資本参加の検討

100

* World Steel Associationが粗鋼生産実績の対象基準である出資比率30%以上の会社(USIMINAS含む)に加え、出資比率30%未満の持分法適用会社で当社が素材供給において重要な役割を果たしている会社 (AGIS)の能力について一律100%単純合算。

(参考) 海外事業の深化・拡充

主要な海外市場において需要地での一貫生産体制を拡大





本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。